

日時 1月13日(木)・14日(金)

定員 35名

会場 アクロス福岡 607会議室

福岡市中央区天神1丁目1番1号

<http://www.acros.or.jp/access/>

《コーディネーター推進コース》 定員35名

1日目	会場	区分	プログラム	講師 (敬称略)	研修の概要とポイント	
12:00			(12:30)受付開始			
13:00		[講演1]	『農林水産分野における技術政策および研究の現状』	農林水産省 農林水産技術会議事務局	『農林水産研究基本計画』における重点研究目標と研究の現状を紹介すると共に現在の事業内容を説明する。 	
14:00		[講義・討議1]	『農林水産系コーディネーターに求める視点』 ー 農業系・工業系分野の技術開発の比較かー	北村 實彬 NPO法人 近畿アグリハイテク事務局長・農水コーディネーター	農林水産分野において活動するコーディネーターの勤所を紹介する。また受講者から提示された課題について全員で討議する。	
15:00			休憩			
15:00		[講義・討議2]	『現場からの提案で行われてきた農林水産関連研究の概観』 ー 地域イノベーション創出総合支援事業等のー 研究課題6500からの分析	齋藤 省吾 九州大学名誉教授 中崎 正好 全日本地域研究交流協会	現場からの農林水産関連研究テーマを俯瞰し、研究の重点化動向を知ると共に受講者から見た課題・視点を討議する。 	
16:00		[講義・討議3]	『研究ニーズの評価の視点』 ー 事例による課題設定の特徴付けー	齋藤 省吾 九州大学名誉教授	研究ニーズの評価の視点を技術の選別法から学ぶ。事例の紹介と受講者との討議を通じてポイントを深化する。 	
17:00			解散			
2日目	会場	区分	プログラム	講師 (敬称略)	研修の概要とポイント	
10:00	1/14 (金) 607 会議 室	[講演2]	『酪農・食品系排水の非生物(旋回噴流式オゾン酸化)処理システム』 ー イノベーションに向けた取り組み事例Ⅱー	設楽 守良 株式会社ヒューエンス 代表取締役	産学連携の実績事例から課題解決推進に向けてのポイントを探る。 グループ討議でのケースメソッドの事例として視点を整理する。 	
11:00		[講演3]	『水産物の安全・安心に向けたトレーサビリティの開発および推進への取り組みについて』 ー グループ討議のためのケース事例紹介Ⅱー	三上 貞芳 公立はこだて未来大学 システム情報科学部教授	異分野連携の取り組み事例から課題解決に向けてのポイントを探る。 グループ討議でのケースメソッドの事例として視点を整理する。	
12:00			昼食			
13:00		[ケースメソッド]	『現場ニーズに即した研究計画をつくるには？ー計画形成のポイント』 ー 事例による課題設定手法の解説ー	齋藤 省吾 九州大学名誉教授	グループ討議のアプローチについてケース事例をもとに検討方法を示す。 	
14:00		グループ討議	グループ討議	[総括] 齋藤 省吾 九州大学名誉教授 北村 實彬 近畿アグリハイテク事務局長 丸山 敏彦 元北海道工業試験場長	[講演2]・[講演3]の取り組み事例からケースメソッドを行う。当該事例での研究ニーズの洗い出しと研究課題の設定・課題解決までのポイントを整理する。さらに新たな視点での課題解決の方策を討議し提案する。 	
15:00		[ケースメソッド] ケース事例分析①	[ケースメソッド] ケース事例分析②			
16:00			研修総括 解散	各総括		

* 都合によりプログラムを一部変更する場合があります。

運営事務局 財団法人 全日本地域研究交流協会
当日連絡先 090-6307-9393 担当 鈴木・長嶋